【最近のこれはお見事！】『ぐちゃぐちゃ』話がぐちゃぐちゃにややこしなる話だそうで、実に分かりやすい映画題名かと。

シネマズライフ

2017年4月21日発行 第123号 http://p.booklog.jp/users/rion-takagi

貴樹(たかぎ) 諒音(りおん)

【最近のこれはまずいぞ！】『ジェーン・ドウの解剖』ホラー映画だそうだけど、この題名だと《新手》の解剖啓蒙学術映画で勘違いされたりして(笑)。

映画の風景 日本の風景

⋇ 阪神高速湾岸線 夜景 ⋇

『メトロポリス』という映画があった。こんな映画だ。

二〇二六年の大都市・メトロポリス。富裕層は地上の近代的なビルに住み富を享受し、多くの労働者を働かせ彼らは無機質な地下都市に暮らしていた。

メトロポリスを管理するフレーダーセンの息子・フレーダーはいつものように、富裕層の娯楽場に遊んでいると、大勢の子供達を連れて質素な身なりの美女が現れる。その美女を見たフレーダーは彼女にひとめぼれ。しかし、彼女は労働者階級で、ほどなくその場から追い出されてしまう。フレーダーは、どうしても彼女が気になり地階へと向かう。

そこは、大勢の人間が汗だくになって働く場所。初めて見る場所にフレーダーは驚くが、ほどなく、労働者の事故を目撃し驚愕！ショックを受けたフレーダーは父親に訴えるが、父親は労働者の事故などまったく気にしない。

実はメトロポリスを牛耳るフレーダーセンは最近の労働者の不穏な動きを察知しており、ある地図を手に入れ、フレーダーの母を争った科学者・ロートヴァングに知恵を借りようとする。実は、ロートヴァングは科学の粋を集め一体のロボットを完成させようとしておりフレーダーセンに披露する。

一方、フレーダーセンは労働者達の希望の光となっていたマリアという女の事を知り、そのロボットをマリアに似せ労働者達を扇動するように指示。しかし、そのマリアは息子がひとめぼれした美女の事だった…。

劇場は映画が作られてから百年後の世界を描いているのだが、この街並みのビジュアルは現在の大都会と印象は変わらず、その想像力がすばらしい。

今、大阪は急速に変わりつつあるが、庶民(労働者)と権力者との距離感を見誤ると、ひどい事が起こるかもしれないと明るくなった大阪の夜を見ると考え込んでしまうのだが。

『メトロポリス』1927年 ドイツ 監督 脚本：フリッツ・ラング 原作 脚本：テア・フォン・ハルボウ
出演：ブリギッテ・ヘルム アルフレート・アベル グスタフ・フレーリッヒ ルドルフ・クライン・ロッグ

マリアを演じたブリギッテ・ヘルムは、以後ドイツを支配したナチスを嫌がり夫と共にスイスに亡命し女優を引退。以後映画の事はマスコミには語らなかったという。

コラム

『メトロポリス』のお話はどっかで聞いたぞと思う件

前編

長い映画史の中で、SF映画が一番古いジャンルかもしれない。

一番最初に公開された映画は一八九五年フランスのリュミエール兄弟の『工場の出口』『ラ・シオタ駅への列車の到着』など12作で大評判に。すると映画作品の最初はドキュメントという事か(笑)。

一九〇二年にジョルジュ・メリエスが『月世界旅行』を公開し、SF映画の最初の映画となった。

以後、映画は世界的に広がりを見せるが、ドイツにも波及。一九二六年にフリッツ・ラング監督の『メトロポリス』が製作された。

アンドロイド
マリア
のレプリカ
↓

映画は富裕層が下層に住む労働者を酷使、富裕層は生活を享受し、《知的労働または支配する事》が《肉体労働》より重要である、という極端な世界で、これはいつの時代も人間は陥りがちだ。

実際に百年経っても同じような国も多く、庶民は労働を強いられているし、権力者は、生活を享受している。

監督のフリッツ・ラングが最後に権力者と労働者が握手するラストを嫌がったという話を聞くと、その難しさまでも予測していたというのはその先見性には恐れ入る。

以下次号

↑ロボットの中に入っている
マリア役のブリギッテ・ヘルム。
主役女優がロボットの中に入るなど
今では考えられない。
見ているだけでも暑いです。

映画上映時間は諸事情の為、下記のように多様にあり、監督自身が納得した作品はプレミア時の上映時間。

しかし、それもラストには納得していなかったと言われている。

私が再見したのはニコニコ動画でアップされているもの。119分で2003年製作と書かれておりこれも謎(;^_^A

- 210分（ドイツプレミア公開時）
- 114分（アメリカ初公開時）
- 104分（日本初公開時）
- 82分（ジョルジオ・モロダー版）
- 123分（2002年版）
- 150分（2010年版）

Wikipediaを参考にさせていただきました。m(_ _)m

☆【最近のこれはお見事！】は見事な映画の題名の紹介、反して【最近のこれはまずいぞ！】は「これは、まずいぞ！」と思う題名を紹介しています。

on air !

CS・BS放送のオススメ映画を紹介します！

CS・BSのオンエア時間は変更になる場合もあります。m(_ _)m

『ツィゴイネルワイゼン』

日本映画専門チャンネル

1980年 日本

監督：鈴木清順 製作：荒戸源次郎 脚本：田中陽造

出演：原田芳雄 大谷直子 藤田敏八 大楠道代 真喜志きさ子 麿赤兒 樹木希林

4月24日（月）21:00

一人旅に興じていたドイツ語学者・青地は、ある町の海岸で旧知の仲である中砂と出会い共に旅をする事に、ある宿で芸者を呼ぼうという事になり、葬式帰りだという芸者・小稲を呼ぶ。そこで小稲の弟の不思議な話を聞き、中砂は興味を持つ。そして、中砂はまたふいと青地の前から姿を消す。

しばらくして、中砂から「結婚した」という連絡が入り訪ねてみるとその妻・園は小稲とそっくりだった。しかし、結婚しても中砂の放浪癖は直らず、園は子供の豊子を残して彼の持ってきた病の為に亡くなる。ある日、中砂から連絡が入り訪ねてみると、豊子は乳母が面倒をみており、その乳母は芸者・小稲だった。その後、中砂はとうとう旅先で死んでしまう。数年経ち、小稲が度々訪ねてきて、豊子が妙な寝言を言っていると言うのだが…。

中砂演じる原田芳雄は『さらば箱舟』にも出演しており、あの世とこの世を行きかう奇妙な役のハマっりぷりは原田芳雄ならではである。

『陽炎座』

日本映画専門チャンネル

1981年 日本

監督：鈴木清順 製作：荒戸源次郎

脚本：田中陽造 原作：泉鏡花

出演：松田優作 大楠道代 加賀まりこ 楠田枝里子 大友柳太朗 麿赤兒 沖山秀子 東恵美子 玉川伊佐男 佐藤B作 佐野浅夫 原田芳雄 中村嘉葎雄

4月24日（月）23:35

１９２６年、昭和元年の東京。

劇作家、松崎春狐は偶然に品子という女と会い、やがて深い仲になる。

ある日、パトロンの玉脇の家へ行くとその一部屋が品子と過ごした部屋とそっくりで驚き、品子は玉脇の妻ではないかと慄(おのの)く。

ある日、松崎は品子からの手紙に誘われ、金沢へ向かいまたも玉脇と出会う。なんと心中を見に金沢へ行くというが…。

『ツィゴイネルワイゼン』がヒットした鈴木清順監督の第二弾。その映像美はパワーアップしている分、お話もますます難解になっていきます。

鈴木監督は日活映画時代、社長に「わからない映画を作ってもらっては困る」と解雇され、１０年間映画が撮れなかったが、その独特な映像感覚は『ツィゴイネルワイゼン』で花咲く事になり、多くの映画ファンを虜にしている。

『狂つた一頁』

1926年 日本

製作 監督 脚本：衣笠貞之助

原作 脚本：川端康成

脚本：犬塚豊 沢田晓虹

出演：井上正夫 中川芳江 飯島綾子 嶋本忠 岡譲 高勢実 高船英助 坪井哲 南栄子

ある精神病院。船乗りだった男は、妻を発狂させてしまい妻が入院している病院の小間使いとして働いている。病院には当然のごとく狂った人々が入院しており、妻の事・娘の事で思い悩む男の心をかき乱していく…。

製作されたのは、大正時代の末期。大正モダニズムの時代。

映画も新しいジャンルの【芸術】で、作家達も新しい気運が高まっており、先に公開されたドイツ映画『カリガリ博士』を見て、自由な物を作ってみたいと衣笠貞之助が、前作『日輪』原作者の横光利一に相談。友人の新感覚派の川端康成が協力する事になり『狂つた一頁』が作られた。

日本では、まだ大正モダニズムの時代だったが、この映画に多大な影響を与えたドイツ映画『カリガリ博士』が製作されたのは第一次世界大戦後の作品でかなり暗い映画のようで(未見)、この『狂つた一頁』もその映像感覚と時代の雰囲気を受け継いでいるようだ。

この時代の日本映画は時代を色濃く反映している映画も多い。

この映画が作られたのは映画黎明期。それでも早々に新しい感覚の映画ができたというのも日本らしい。

そして現代、映画初期の作品とはいえ、まだまだ刺激的な映画を見てみるのも映画ファンの楽しみの一つかと思う。

Wikipediaから使用させていただきました。m(_ _)m

Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie CinemaFilm Movie Cinema Film Movie

☆読んで頂いてありがとうございました。よろしかったらコメントでご感想・お叱りお聞かせください。よろしくお願いします！m(_ _)m 貴樹諒音

☆次回発行は5月5日。発行予定は第一・三金曜日です。m(_ _)m

【編集後記】

☆今号は『メトロポリス』『ツィゴイネルワイゼン』、『狂つた一頁』と映像美で注目を浴びた映画を紹介してみました。

特に映画創世記の映画は白黒・俳優の大袈裟な演技など取っつきにくい人もおられるでしょうが、ぜひ試しにご鑑賞して見てみると映画の深さが見えてくると思います。

皆さまお体大切に！

かしこ。m(_ _)m

シネマズライフ123号

✖ 発行人：貴樹諒音 ✖

発行日：2017年4月21日

cinemaz-life@movie.nifty.jp

✖ 告知ブログ ✖

http://rion-mitugu.cocolog-nifty.com/mitayo/

↓フレーダーセンの部屋から見える未来都市『メトロポリス』より

シネマズライフーcinemaz-lifeー １２３号

http://p.booklog.jp/users/rion-takagi
著者：貴樹 諒音
メールアドレス **cinemaz-life@movie.nifty.jp**
著者紹介ブログ 『明後日の憂鬱』
http://rion-mitugu.cocolog-nifty.com/mitayo/2012/01/post-bcc7.html

【写真素材-フォトライブラリー】
の画像を使わせてもらっています。

《日本映画専門チャンネル》
『陽炎座』
『ツィゴイネルワイゼン』

映画の感想は現在・下記のサイトにアップしています。
ぜひ、ご覧くださいませ。

Yahoo!映画
rion_takagiのMyムービー
http://my.movies.yahoo.co.jp/profile-g.uFIUaEfCFw6D1cq3gb5A--

※＆ 他にもいろいろやってます。**(^^;)** ※＆
お世話になっているインターネットＴＶ
netchannel KYO

『オススメ犬映画』
http://www.pet-c.net/column/movie/index.php
犬の映画を紹介してます。

§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※

感想はこちらのコメント欄かメールを頂けたら幸です。
cinemaz-life@movie.nifty.jp

§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社paperboy&co.